

平成22年度

第4回 鶴岡地域審議会

会議録（概要）

期 日 : 平成23年2月8日（火）

場 所 : 鶴岡市役所 議会委員会室
鶴岡市役所 501会議室

平成22年度 第4回鶴岡地域審議会会議録（概要）

○ 日 時 平成23年2月8日（火） 午前9時30分～

○ 場 所 鶴岡市役所 3階 議会委員会室・5階 501会議室

○ 出席委員（五十音順）

阿部和博、五十嵐修、五十嵐吉右衛門、五十嵐寅吉、五十嵐松治、延味孝太郎、
加藤玲宗、後藤輝夫、今野毅、今野利克、佐藤正廣、荘司正明、竹内峰子、茅野進、
早坂剛、早坂裕子、本間孝夫、山田登

○ 欠席委員（五十音順）

遠藤勲、齋藤春子

○ 市側出席職員

教育次長 森博子、参事兼管理課長 佐藤孝朗、学校教育課長 栗田英明、
学校教育課学区再編主査 本間明
市民生活課主幹 富樫栄一、市民生活課係長 清野健
地域活性化推進室長 吉住光正、地域活性化推進室係長 粕谷一郎、
地域活性化推進室主任 飯野剛

1 開 会 （午前9時30分） 進行：吉住光正地域活性化推進室長

2 あいさつ

3 協 議

（1）学校適正配置検討作業について（説明：教育委員会）

（2）分科会

・地域コミュニティ分科会 （議会委員会室）

・産業経済分科会 （501会議室）

（3）全 体 会

・分科会での協議内容報告

（4）その他

4 その他

5 閉 会

1 開 会 (午前9時30分) 進行：吉住光正地域活性化推進室長

2 あいさつ

○ 鶴岡地域審議会会長 早坂 剛

足元の悪いところお集まりいただきましてありがとうございます。今日で審議会も第4回目を迎え、年度末ともなっておりますことから、そろそろ今年度の結論めいたことも出さなくてはと思っております。次年度への継続ということも確定しておりますので、この辺で大体まとめていければと考えています。本日は2時間30分の予定でありますので、最後までどうぞよろしくご審議の程お願いします。

○ 吉住光正地域活性化推進室長 協議に先立ちまして、審議会委員の所属団体・役職名に若干変更がありましたので、事務局よりご報告させていただきます。6番、五十嵐松治様、それから14番、竹内峰子様でございますが、鶴岡市民生児童委員協議会連合会の会長の職が12月1日付けで五十嵐様より竹内様に交代されておりますので、それに伴い14番の竹内様につきましては、市民生児童委員協議会連合会の会長としての役職で審議会委員を引き続きお願いしたところでした。また、6番の五十嵐様におかれましても、引き続き学識経験者として委員をお願いしておりましたので、御両名様ともよろしくお願ひいたします。それから18番、鶴岡青年会議所の佐藤正廣様ですが、佐藤様につきましても1月1日付けで新理事長に交代されたとお聞きしていますが、新理事長様が藤島地域在住で藤島地域審議会の委員でもありますことから、鶴岡地域審議会においては、引き続き佐藤様に委員をお願いしておりますので、ご報告させていただきます。

それでは協議に入らせていただきます。最初に、学校適正配置検討作業について、教育委員会から報告いたしますので、ご意見、質疑を頂戴したいと思います。座長につきましては、会長をお願いします。

○ 早坂剛会長 今日の予定を申し上げますと、最初の学校適正配置検討作業についての検討会を約1時間位、その後、分科会を約1時間位、それからこの席に戻っていただいて、全体会を30分位という予定で進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。それでは、教育委員会から学校適正配置検討作業につきましてもの説明をお願いします。

3 協 議

(1) 学校適正配置検討作業について

○ 教育委員会学校教育課より説明

○ 早坂剛会長 随分大きな問題のようございまして、いかに少子高齢化という人口減少が、早く進んでいるかということだと思います。今、学校適正配置検討委員会で検討していますが、旧鶴岡市の関係する、小堅、湯田川、栄、田川、由良、加茂、B群になると、斎、黄金、大泉、京田、上郷、三瀬、湯野浜、西郷と、この審議会にも関わっている皆さん、地域の方々おると思っておりますので、自分のこととしながら、意見ご質問などありましたら、どうぞ承りたいと思っております。

○ **五十嵐修委員** 私は緊急性の高い所に住んでいますが、複式学級にしなければならない基準があれば教えていただきたいのですが。

○ **栗田英明学校教育課長** 2年生以上の学年につきましては、二学年を合わせて16人まで、例えば、3年生が9人、4年生が7人といった場合は複式学級になります。合わせて17人以上になった場合には、それぞれ単一の学級で行うことが出来る。ただ、1年生を含んだ場合だけ特別になっており、1年生と2年生を合わせて8人までは複式学級になります。

○ **早坂裕子委員** 驚愕的なその現実と数字で、ちょっとびっくりしたのですが、私はスポーツ少年団で本部員をしています。団登録、団員数のこの30年間ぐらい推移を見てきて、これほどの減少は、実際のところスポ少の方ではないのが現実です。鶴岡市の少子化というのは、全国に比べてどうなのでしょう。

○ **栗田英明学校教育課長** 現在の正確なデータを持っておりませんが、全国的には同じように少子高齢化の傾向ではないのでしょうか。今、早坂委員の方からお話しありましたが、以前だと一校ずつでスポーツ少年団が組織出来ましたが、一校だけでは、いろんな種目を経験出来ないというような現実があります。現在は何校かで一つのスポーツ少年団を組織、立ち上げて、それぞれの種目について競技を行う、組織として行動するという事例のようです。

○ **早坂剛会長** 私から質問ですが、小堅小学校だと22年度で38名、大網小学校で15名、朝日大泉小学校で12名の児童数です。現在は、この小学校はどのような学級構成をしているのですか。

○ **栗田英明学校教育課長** 12ページの方ご覧下さい。学級数が一番上から28、一番下の3まであります。お話あった朝日大泉小学校については12名で3学級になります。朝日大泉小の場合は6年生が確かいないと思いましたが、1、2年生、3、4年生、5年生、組み合わせははっきりしませんが、全校で3学級という運営状態になっております。同じように、大網小学校、五十川小学校、山戸小学校についても、3学級ということで、それぞれ完全複式学級2学年ずつ3つの学級で、学校、学級を組織している状況です。

○ **早坂剛会長** 今の計画では26年度までに方針を決めるとなっていますが、これで大丈夫ですか。今の四校の学校は、教育の問題についてこのままの状況で進めていっていいのでしょうか。どうでしょう。

○ **栗田英明学校教育課長** 完全複式の学校について先生方も頑張っています。子ども達も一人一人、一生懸命学習に取り組んでいます。小規模校の良さもたくさんありますが、課題もたくさんあります。出来るだけ複式学級にならないような環境で、子ども達も学ばせたいという気持ちを持っております。今大変だから、すぐに来年度から変えるということはありませんから、地域住民の皆様に、まず情報提供を十分行い、地域の皆様のお考えを十分お聞

きして進めていきたいと考えておりますし、現在も複式学級がある学校に対しては、市として支援員のような形で一校に一人とは出来ませんが、0.5人ということで二校に一人の配置を市独自で行っています。26年度まで大丈夫なのかというご質問に対しては、現場でも頑張っております。市でも出来る範囲で支援をしていきながら、今後の学校のあるべき姿について、地域の皆さんからも検討していただきたいと考えております。

○ **早坂剛会長** 一番子ども達にメリットがあるようにしていかなければならないと思いますが、デメリットのほうを今皆さん一生懸命やっているのは分かりますが、デメリットはどのように解消できるのか。学校同士の交流ということもやっているのですか。

○ **栗田英明学校教育課長** それぞれ学校ごと形は違いますが、地域ごとに交流等は行っています。先日も市の議会見学に、朝日地域で三校一緒に来るということもございました。

○ **山田登委員** 一校として独立しておる小学校がへき地の方になるようですが、子どもの数が急激に減ってきているという学校は、国の基準から見て一校の独立としかみなされない。どこかの小学校の分校のような基準が出てくるのではないかと、私も学校を辞めて大分なりますので、どういう基準になっているのか分からないのですが、校長、教頭は配置しないで、教諭だけ配置する、分校的な学校にしなければならない学校が、鶴岡市の中にもあるのではないかとと思いますが、状況はどのようになっていますか。

○ **栗田英明学校教育課長** 分校という形で、校長、教頭、養護教諭、事務職員も置かないで学校を組織するという考えは、現在のところ持っておりません。学校としてなかなか厳しい完全複式の学校については、人数、職員の配置の表にもございましたが、校長、教頭、学級担任が3学級ありますので3人、あと養護教諭まで配置はありますが、それ以外の配置がございません。家庭の事情とかで欠けた場合には、いろんな意味での学校運営にも支障はきたすと思います。ただ、いろんな部分で、先ほども話しがありましたが、デメリットの部分はありますが、まず学校として、先生方も子ども方も頑張っている。そういった学校について、分校という形で他の学校に統合するという考えは現在持っておりません。

○ **後藤輝夫委員** 私は質問よりも意見を申し上げたい。タイトルにあるように学校適正配置ということで、適正な配置と適正な規模ということが前提となっております。ところが、これだけ鶴岡市に学校がありながら、特に小学校においては、旧町村時代でも学校の統廃合が行われて、なおかつ十何名、二十何名という規模の学校になっているところが、第二次の学校統廃合の波を受けるわけです。資料では、学校規模の実現を目指し、子どもにとって望ましい環境を作るために適正な規模、適正な配置と掲げていますが、当然、廃校され統合になった場合、子ども達の通学距離が長く広くなり、現在でもスクールバスを使って登校しているところが、それ以上の2倍もの距離を通学することになると思います。適正規模、適正人数だけでなく、子どもの健康も考えなければ教育の適正な環境とは言えないと思います。先ほどの、1年生を含んだ場合と、それ以外の学年の複式の人数が違うように、小学校でも、

1年生から6年生まで朝の始業は同じでも、放課後の時間帯が違います。例えば、午前中授業4校時と給食で終わる学年、5校時で終わる学年、放課後の活動が含まれて7校時活動をする学年もある場合に、こんな少人数の子ども達のスクールバス運行をどう配慮するかというのが一つあります。それから、放課後の子ども達が自主的な活動、グループ活動や同学年の子ども同士の遊びが出来る、その安全確保の面もあります。子どもに適正な優れた環境を作るということは、それらも含めなければ問題にならない点はこの資料には見えないし、中間報告でも統合校の子どもへの配慮とありますが、これがなければ、次の段階の23年度か24年度からか、地域で審議をする人達の考え方は出てこないと思います。これは今までの統廃合で、例えば、朝日大泉小学校に朝日大鳥小学校が廃校して10キロ以上のスクールバスを使い、仮に今後朝日小に全部統合なると考えた時、その倍の距離の登校、今、市街地でも8時前の登校になれば家を出るのが7時台です。スクールバスを使わなければならないところは6時台に家を出て、帰るには高学年に合わせ、学校で自主的な、個人的な活動をするようになって、安全の確保も含めて、是非計画の中に盛り込んで提示していただきたい。これが意見です。

○ **栗田英明学校教育課長** 後藤委員の方からご意見をいただきましたが、我々も今おっしゃった子ども達の生活の部分、まず一番大切に考えていきたいと思いますので、今後、話し合いの中に盛りみたいと思います。

○ **阿部和博委員** 今、子ども達の面からのお話がありましたが、私、栄小学校が母校で、緊急性の高い学校ということで、この資料を読み栄小はあと無くなるだと思いました。栄小の歴史も28年度か26年度になりますか、終わりだというのが率直な意見です。それぞれの地域の学校というのは、地域のシンボル、地域住民の心のよりどころだと思います。これが無くなるということは、地域住民にとっても痛手で、非常に寂しい思いがあるかと思います。前に温海の何小学校だったか忘れましたが、統合について反対運動が起こり、新聞紙上も大分賑わしたような記憶がございます。この中で廃校の憂き目に会う学校では、そういう運動が出てくる可能性もあろうかと考えるところです。来年度から地域検討委員会が発足しますが、廃校にならない学校の保護者、地域の方は、あまり関心がないのではないかと考えています。廃校になる所の地域住民につきましては、先ほどの考え方で、非常に興味がある部分だと思っていますので、地域検討委員会とは別に、無くなる学校単位の検討委員会も開催していただいて、地域住民の意見を十分に盛り込んだ中での統廃合計画として進めていただければありがたいと思います。

○ **栗田英明学校教育課長** ご提案あった学校ごとの検討委員会については、今の段階でお答えすることが出来ませんが、現在のところ中学校区ごとに、保護者、地域の皆様に対して今後説明会を開きたいと考えております。正確な情報を提供し、その中でいろいろなご意見をいただきながら、今後の方向性について考えて参りたいと思います。

○ **本間孝夫委員** 資料みてちょっとびっくりしたのですが、平成元年から22年までの見

童数の推移、今度28年までの予想される児童数と学校再編の考え方は十分理解できますが質問です。先生の数がどう変化しているのか。22年から28年まで千人くらいの児童数が減る中で、先生の数がどう変わっているのか、単一学級の人数に伴うことでの先生の数に気がなりました。

○ 栗田英明学校教育課長 教職員の人数について、私どものほうで資料持ってきておりませんので、後ほど皆さんにお配りする形で対応させていただきたいと思います。ただ、山形県について、全国的にも来年度35人学級ということで、1年生については予算措置するということが決定しましたが、現在、「さんさんプラン」ということで、来年度から3年生まで実施することになりました。それに伴い必要な教員数も増えているわけですが、全体的な人数については、不確かなことを申し上げては失礼にあたりますので、後ほどご提示させていただきたいと思います。

○ 早坂剛会長 いろいろご質問は多いと思いますが分科会もありますので、よろしければ、説明会はこれで終わらせていただきますが、今後のこの会に学校適正配置検討委員会の報告はありますか。今日だけの話ですか。

○ 吉住光正地域活性化推進室長 今回初めて、皆様にご提示させていただきましたが、来年度、地域検討委員がスタートするスケジュールなっております。進捗状況を少し見ながら、一度皆さんに何らかの形でご提示出来ればと考えております。

○ 早坂剛会長 是非ひとつよろしくお願いします。

(2) 分科会

<地域コミュニティ分科会>

○ **山田登分科会長** ただ今よりコミュニティ分科会を始めます。初めに今までの会議で、自治振興会・町内会活動に関すること、地域福祉活動、高齢者への対応、民生委員、子育て、スポーツ活動そして消防団などについて意見交換をしてみました。その中から課題になるものとして、まとめていただいておりますので、最初に事務局より説明をお願いします。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** (まとめの報告)

○ **山田登分科会長** 今まで委員の皆様からいただいたご意見の中から4つの課題として焦点化されたようです。それぞれについて質問などありましたらお願いします。これ以外でも別の視点から取り上げなければならない問題もあると考えますので、お気づきの方ございましたらよろしくをお願いします。各地域で町内会活動等それぞれの団体の目的に沿って、一生懸命活動していると思いますが、横の連絡等については今後、もっと活発にしていく必要があるのではないか。そして、それぞれの活動についてお互いにもっと理解しあう必要があるのではないかと言われていたと思います。小学校単位で役割分担、連携の在り方を考えていく必要があるということです。2つ目は、高齢者あるいは要支援を必要とする方々への対応の在り方ということで、今後重視していかなければならないのではないか。これについても偏りが無く、連携しながら活発に活動していくと考えた場合、それぞれの団体の役割分担をお互いに出し合い、相互理解を図っていく必要があるのではないか。個人情報に関わって非常に難しい問題もありますが、これらを乗り越えて今後進めていく必要があるのではないかということに伴い、地域活動を担ってくれる方々の要請の在り方、人材を育てることも大事になってくるのではないかと思います。また、子どもの数が少なくなっておりますが、そうであればあるほど、子どもを大事に地域で育てていくことが、これからは重要ではないか。学校と地域が連携して地域の中で子どもを育てていくには、どのような方策、活動があるのか、議論していく必要があるのではないかとということです。この4つのことについてはどうでしょうか。

○ **五十嵐松治委員** 高齢者は、今年のような豪雪では大変な思いをして生活するということが多々あるわけです。先日、テレビを見ておりましたら、この度の豪雪対策で青森県の例が紹介されておりました。青森県で除雪作業が出来なくなる主な理由として、各除雪作業に関わる業者の除雪機材の老朽化が問題となっていたようです。買い換えるにしても1千万円から3千万円の費用がかかり、買っても冬期間の利用方法しか無いということで、青森県では購入できる資力のある業者が少ない状況のようです。自力で除雪が出来ない高齢者が増えており、地域で除雪の協力をお願いしたけれど1人も応募者がいなかったということで、本当にどうすればよいのか、機材の老朽化が進んでも買い替えが出来ないようなつらい現実が重くのしかかっているという放送でした。それで、鶴岡の場合、今年は不十分な除雪が目立ったものですから、市としての除雪対応がこういうことに影響されているのかと頭に浮かんだところです。このようなことが基本として、除雪の対応、高齢者への対応を自治組織、各

個人の協力体制とかを通じて、生活しやすい環境をどのように構築していくのか、検討できればと考えています。質問ですが、鶴岡の場合には、青森県のように危惧された状況はないのかお聞きしたいと思います。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 鶴岡の場合は、自前で機械を所有し除雪する、業者に全面的に委託する、業者に機械を貸し付けて委託すると地域により様々です。これだけの豪雪地帯ですので、全く除雪作業がないという年は殆どありません。除雪機械については、基本的には市あるいは業者の方で所有し、更新するものは更新し、市が払い下げるなどしております。機械が無いというのは担当課でないとわかりませんが、中山間地域において、これだけの豪雪になると対応が出来ないというのは多々あるようです。また、朝日地域の山間部で4～5回位、屋根の雪下ろしをしたようですが、3回も行うと下ろす場所が無くなり、家の周りの雪をどこかに運んで排雪しなくてはならない。そのような集落については、機械を共同で借りる部分は市で助成をして対応しています。例年ベースですと、本市の場合、相当手厚く除雪を行っておりますが、今年のような豪雪になりますと、高齢者の家は、道路はどうするのかといった新たな課題が出てきております。

○ **茅野進委員** 第一項目について意見を言わせていただきます。資料の左側の1の4番目、「地域、隣組の活動を相談できる窓口」というのは、窓口を自治振興会の中での担い手としては、コミセン・自治振興会があるのではと思います。各団体が地域にはたくさんありますが、その相談窓口となる機能はコミセンではないかと思えます。連携・協同・理解するというのはよく出てくるのですが、どこが、誰が、どうするかとなるとコミセンでないかと思えますが、コミセンの機能となりますと生涯学習と自主防災という形で、受け入れ窓口が現在もあるのかどうか、是非やってもらいたいと思えます。その連携の窓口は自治振興会のコミセンでないかなと思うのですがいかがでしょうか。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 少し整理をさせていただきたいのですが、方向性としてこれで良ければ、今のような具体的な提言や意見は、1番については資料も準備しております。1番に入って議論をしていただいた方がよろしいかと。今後の議論の方向性だけお認めいただければ、1番で今のように意見交換させていただきたいのですが。

○ **山田登分科会長** 制約された時間内での情報交換ですので、意見を出し合い議論の中に入れていっても良いのではと思います。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** それでは、来年度にかけて1番から資料や調べられるものについてお出しして、皆さんから意見を聞いて提言として取りまとめる内容で進めたいと思えますので、どんどん意見を出していただき、より良い提言にしたいと思います。

○ **山田登分科会長** それでは、資料について説明をお願いします。

○ 吉住光正地域活性化推進室長 先ほどの質問に答える前で大変恐縮なのですが、地域コミュニティの資料を準備しておりますので、市民生活課から説明いたします。

○ 富樫栄一市民生活課主幹 私の方で出しました組織のイメージ図の前に、今後の方向性ということで事務局で整理をしております。例えば1番の組織等に関して、鶴岡地域においては学区単位にコミュニティセンターがございます。全市的にみると学区単位にコミセンがあるのは鶴岡だけです。藤島から周辺地域については社会教育事業の公民館があります。将来的にコミュニティを推進するための施設として、どうあるべきかということも大きな課題として残っております。その関係で鶴岡地域のコミセンについても、総括的なことを少し整理しないと、周辺地域にどういう形でコミュニティの拠点施設を取り組むべきかが見えないことから、地域のコミセンについてもご意見をいただければと思っております。もう1点目は、2番目の高齢者、要支援者対策でも触れておりますが、災害に対して、特に要対処者の実態を把握することが前提となりますが、なかなか行政が情報を提供することは、個人情報保護条例の規制、市民課で所管している住民基本台帳法のしぼりがあり、必要なところに必要な形でお出しできないのが現状であります。そういったしましても地域、町内会の中で、どういう世帯があり、どういう方が住んでいるのか、組織であれば、組織の構成員の方々がどこにいらっしゃって、どういう状態であるかということ、是非地元が一番身近な皆さんが把握できる方法はないのか、今後、個人情報保護の観点で行政がどこまで判断し、要望に応えていくかが課題となっております。地域にいて自分のところはこうだという住民カードのようなものの整備がきちっと出来ないものかとの思いを持っております。今回、地域コミュニティの構造・活動ということで、市街地の第一学区と郊外地の田川地区の2つの例を出させていただいています。この2地区は平成21年度に広域コミュニティ実態調査を実施しました関係で組織の形を整理した内容です。例えば第一学区であれば小学校区として、コミュニティセンター、社会福祉協議会、体育協会、小中学校のPTAなどの組織があります。学区全体としては講演会、夏祭り、防災訓練などの活動をしているのがこの表です。それから第4層が自治会・町内会の単位です。ここでは町内会組織が24、地区の自治公民館、自主防災組織が19、老人クラブが8あります。その右側に、それぞれの町内会の事業として、公園等の清掃、アメンロの防除、敬老会、夏祭り、防災訓練などがあります。隣組単位の第5層で、第一学区であれば383あり、仕事としては回覧板の配布、声かけ、ゴミステーションの管理など、隣組、町内会、小学校区ではこのような業務を行っています。市街地では町内会が住民自治組織の核になり、町内の運営、行事をしています。市街地のコミセンは、コミュニティセンターの貸し館業務と学区全体に関わる行事、社会教育事業としての講座、サークル活動の場所、行事的に町内会とダブっているところもありますので、町内会と学区の関係をもう少し見直しをして、より活動しやすく、ダブルことがない方向性を探していきたいと思っております。ただし、その辺の連携をするということ、町内会だけで解決できない問題が増えてきていることで、地域で地区できちっと受けていただくという方向性がどうあるべきかというご意見をいただければありがたいと思っております。次ページはコミセンの組織図です。左側のほうに町内会の協議会として各町内があり、右側の方に主要団体として、学区コミュニティ振興会の組織の中に入っていることで、これがきちっと連携し、

なおかつ役割分担をした場合には、それぞれの役割が十分機能してくると思っておりますが、委員さんからのご意見もあったように、なかなか連携が十分でないということが課題と思っております。一方、3枚目の田川地区については、隣組、町内会、小学校区と同じような形で区分しておりますが、市街地と郊外地について、郊外地はもともと行政区域、昭和の合併以前は一つの自治体で、コミセン自体が地域の核となるようなイメージであります。その辺が市街地と郊外地の違いとなります。郊外地では特に集落の高齢化、機能の低下が言われております。その辺りはコミセン、地区の自治振興会が、地域づくりに今後益々力を入れていただきたいと思っております、市街地と同じように町内会とコミセンとの役割分担、連携部分をきちっと作っていきながら、コミセンが地域づくりを率先して取り組む仕組みづくりが必要と思っております。最後が、田川地区自治振興会の組織図で10集落です。ただし各種団体というのが、地区の社会福祉協議会、年代別・性別のいろんな組織があります。市街地に無いのは農林業の産業的な組織があります。自治振興会とこの産業的な組織がどう連携をして地域の活性化を図っていくかというのも課題であります。2つの地域を紹介させていただきました。この中で皆さんがお住まいの組織、コミセンなり町内会があるわけですので、将来的な組織としてどうあるべきか、コミセンについて今後こうあるべき、するべきというご意見があれば是非伺いさせていただきたいと思っております。市としては、コミュニティ実態調査を今年度まで。今後、将来的な地域コミュニティの在り方について、基本方針を取りまとめるスケジュールになっております。それに反映をさせていただければありがたいと思っておりますので、ご忌憚の無いご意見をいただきたいと思っております。

○ **山田登分科会長** ありがとうございます。茅野委員からは相談窓口はコミセンにあったほうが良いという意見がありましたが、それに伴い第一学区振興会、田川地区の地域コミュニティの構成と活動などについて説明がありましたし、それぞれ小学校単位でコミュニティの活動組織、町内会組織、その他の団体との関わり合い等議論されて、それなりに活動を進めているのではないかと思います。第二学区につきましても、コミセン、振興会の規約の一部改正を、新年度に理事会・評議委員会を通して正式に決定したいと進めております。町内会の活動とコミセンの活動について、お互いに連携し合って第二学区のためになる活動になるよう議論しているところです。基本的にはこの課題に沿って、これから更に話し合いを深めていくことでよろしく申し上げます。

○ **後藤輝夫委員** この横版の1番の左側の2つ目に、地域内の各種団体の連携が十分に機能していないのではないかとというのが実体であります。従って、これを受けて右側に学区単位の自治組織、振興会のあり方や単位組織の役割分担や連携について見直しを図っていく。この方向性について、私は是非やっていただきたいというのは、最近のことですが、計画を策定する委員会に出席したところ、中央の学者、研究所が書いたものを論議しないで、出席した委員も自己主張に終始し、時間切れで終わりました。そのような中央から全国版の新聞を読んだようなものを策定されて、論議するという事はナンセンスなのです。むしろ今日の資料が、各委員が町内会や地区の振興会に関わる人が声を出していますので、この解明のために市民生活課、ご出席の方々、教育委員会などで考えていただきたい。3番目には、市

民意識の醸成とリーダーの育成とありますが、この地域には、公益大学、大学院もありますので、市民大学講座のように毎年義務的にコミセンや振興会や町内会のリーダー達が学習するような方策をとっていかないとリーダーは育たないと思います。また、子育ての問題にしても、今年中にまとめるとか、来年も橋渡しするというのではなくて、堂々と鶴岡市の大きな幹になる政策として、あなた方の担当がやっていかないと、形ばかりでマンネリ化している。だから地域によっての質は相当違うと思います。役職についてただ居座っているものもあり、各種団体がバラバラなのです。連携していくためには、富樫主幹が説明したように実態のことを解説したり、現場の人達が意見を交換し合ったりするような学習機会、リーダー養成機関が必要かと思います。是非、このようなことをやっていただきたい。

○ **山田登分科会長** 各組織の見直し、役割分担とその連携のあり方に重点を置いて意見交換をしていく必要があるのではないかと。それぞれは一生懸命やっているとは思いますが、お互いに理解不足ということもあるだろうし、どこかの立派なことを書き写して方針を作って、マンネリ化に陥ってしまうのではないかと。実態に即して、自分たちが取り組むべき方針を明らかにし、お互いに理解をしてやっていく方向でということ。次の役員の養成、研修のあり方についても公益大学とかと連携を図っていく必要があるのではないかとのご意見がありました。

○ **早坂裕子委員** 初歩的で今更という質問かもしれませんが、このコミセンの事務局長とか事務局員は、どのように選任されるのでしょうか。

○ **五十嵐寅吉委員** 地域のリーダーが適任者を選ぶ仕組みかと思いますが。ほとんどの地域がそうかと思いますが。

○ **早坂裕子委員** ありがとうございます。事務局長、事務局員の講習とか全市での研修会はあるのでしょうか。

○ **五十嵐寅吉委員** 当然あります。学区コミセンの事務局長であれば年2から3回の研修はあるかと思いますが。おそらく職員もあると思います。郊外地の自治振興会の局長も同じように年2から3回の研修に加えて、自治振興会は地域と行政の橋渡し役のようなものですから、市民生活課からも適宜指導を受けております。

○ **早坂裕子委員** 率直な体験談ですが、コミセンの窓口に行きますと感じが悪いということが多々あり、どのような対応の仕方の指導をされているのか、本当にありましたのでお聞きしました。私達の年代や子どもの年代でも、若い人たちが、コミセンを利用、相談したい時にもものすごく話しづらい。それから対応の感じが悪さがあり、全てではないのですが、他の会場をあたることが結構あると思います。例えば、我々は民生委員さんが、どなたなのか把握することが出来ない場合でも、お隣のお年寄りのことを相談したい、子育てのこととか何か相談したい時に、コミセンの窓口の対応の仕方ひとつで我々世代からの若い人たちは、

利用の仕方がものすごく違ってくると思いますので、是非、利用しやすい窓口、団体の関連性がどうかの前に、まずコミセンをどのようにして利用できるかというところに、視点を移して欲しいということがあります。それと、コミュニティ分科会にも次回からは、先ほどの少子化問題は一人一人が考えていかななくてはならなし、日本の将来がそこにつながっていきますので、大きな問題として掲げていただきたい。全市民が考えるようなもっていき方が、ものすごく大事なことではないかと思いました。鶴岡市への質問ですが、先ほどの学区編成の検討会とかありますが、少子化を専門に検討している会とかはあるのでしょうか。

○ **五十嵐寅吉委員** 最初の窓口での対応が悪いということについて、私もコミセンの職員については、地域の拠り所なのだから「窓口は笑顔にしてください」といつも言っている。それは、会議などで事務局長さん達に会う機会もあるので貴重なご意見として伝えておきます。ただこれは、地域のリーダー次第かとも思う。あなた達の務めの心得は何かということ常に意識させておく必要がある。

○ **富樫栄一市民生活課主幹** やはり窓口なものですから、市民の方から市民生活課にご意見をいただくことは稀にあります。該当する所にはきちっとお話しするようにしています。先ほど、早坂委員のお話にもありましたが、コミセン自体が、貸館はサークルがたくさんあります。空きがない位の利用をしていただいております、たぶんどこも年度初めに登録サークルの方々が集まり、年間の利用を決めている状況で、特定の団体が多くならないようにコミセンの事務局で調整をさせていただいているところかと思えます。ただ、これは地域の活動もですが、地区も町内会でも若い人がなかなか参加してくれないというのが、あちこちで聞こえてきます。そうすると地区の核となる施設のコミセンに若い人達が行かないと、地域で何をやっているのか分からないこともあるかと思えますので、その辺は若い人達も使える施設のあり方について、私どももコミセンの方と話し合いながら、改善すべきところは改善していかなければならないと思っています。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 少子化問題のご質問で、保育や子どものことなどの窓口は従来からありましたが、市としては子育て推進課を設置しています。今おっしゃられる少子化問題は、そうした部分的なことだけでなく、これだけ子どもの数が減っていることで、様々な問題が生じているのではないかと。それについては市としても考えておるところですが、先ほどの学校の問題、結婚の問題、地域の活力、伝統芸能の問題、子どもが少なくなって生ずる問題は、いろんなところに現れております。市の窓口が統括するよりは、全市的な取り組みの中でいろいろな部署が担当しているのが現実であります。

○ **早坂裕子委員** 子育てや支援とかは、現状のところを手助けするもので、将来的なところを、この30年間でこれだけの減少があったことは何が原因だったのか。出産や仕事のこととか、係わり合いとか、いろいろあるかと思えますが、その原因を考えて、この少子化をどのようにして止められるのか。今育っている子どもたちの将来を明るくするためにも、我々の世代は、何が悪かったのか何を改善すべきかを検討していかない限り止らないと思

ます。もう少し危機感を持ってこの問題に取り組むべきと感じています。

○ **竹内峰子委員** 少子化の話題ですが、日本全国のことで鶴岡だけの問題ではないです。子供が少ないのは子育て云々だけでなく、婚活も総合計画の中に盛り込まれて、いかにして結婚し、子供が生まれ、原点に戻るとというのが、今言われた子育てだけの問題ではない様々なものがあり、鶴岡の市民も結婚できない状況の中で、一番に婚活というのが出ています。この前、鶴岡で婚活を企業化している方の講演もあったようです。婚活もそうですが、子どもを産み育てる部分において物を作るのとは違い、人としての大事なものがありこうしたらという妙薬はそう簡単には生まれないと思いながらも、根源である、なぜ、結婚出来なかったか子どもを産むことが出来なかったかという、我々は大勢の兄弟で育ち、着実に自分が例えば三人産めば繋がるのかと思うのが、一人一人の責任の中で、何が原因かは簡単に問題解決には至らないと思いながら重要な課題であるということで、ようやく国や市を挙げて取り組もうとしている姿が見えてきたと思います。私の周りにも50代でも結婚しないでお年寄りと暮らしている家庭もあり、うちの地域ではそこまでは手を出しかねている中で、今、ようやく市が出したわけですが、子育て推進課だけでなく、いろんな方々が議論をしても難しい課題だと思えます。嫁を紹介して、再婚でも子連れでも良い、と言われても個人の問題もあるので簡単には紹介できない。でも取り組まなければならないことは分かるが、簡単には解決できない難しい問題だと思えます。

○ **山田登分科会長** 子どもが少なくなった原因追求についても、勉強をして考えていかなければならないという貴重なご意見でございました。その辺も日本の展望だけでなく、総合的にこうなっているということをも早急に埋めなければならない大きい課題があるのではないか。次回はその辺も含めて議論を進めたいと思います。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 今まとめていただきましたが、この議論は次回等でもぜひお願いしたいことと、少子化の問題については非常に大きい問題であることも事実でございますが、手をこまねいている訳にはいかないので、四番の子どもとの関わりの中で、今このことを具体的に取り上げて、皆さんに議論していただき進めさせていただきたいと思えます。

＜産業経済分科会＞

○ **今野毅分科会長** 今日の進め方としては、前回までの意見のまとめ、総括を事務局より報告いただいて、その後、分科会としての方向性を固めたいと思います。それでは、事務局から経緯も含め説明をお願いします。

○ **粕谷一郎地域活性化推進室係長** （前回分科会のまとめを報告）

○ **今野毅分科会長** 過去の意見交換、前回までの総括ということで報告をいただきました。この他にもいろいろとあろうかと思いますが、多くのことに取り組むことは不可能ですので、今後の議論の方向性ということで、前回まで話し合われたことに焦点を絞って何かを提案していったらいかがでしょうか。なおかつ、直ぐに実践に結びついて地域に貢献できるというものが命題となるわけですので、それについても、いろいろと考えていることがあれば忌憚のないご発言をいただきたい。

○ **本間孝夫委員** 先ほどの説明にもありましたが、間違いなく高齢化社会が進んでいます。まだ鶴岡は、それ程切実な問題にはなっていないようですが、最近、買物難民の話題、それに対応した民間企業の取り組み、連携などがニュースで盛んに取り上げられるようになりました。県内でも、生協の移動販売車が上山市からスタートし、3月からは酒田市でも始まります。庄内町のイクゼあまるめなども事業として取り組んでいます。鶴岡でも、その考え方を深くまとめていく段階に来ているのではないのでしょうか。地域審議会も、コミュニティ分科会の資料を読んでもそうなのですが、地域の高齢者が元気で住んでよかったと思えるまちづくりを考えるのが狙いではないのでしょうか。高齢者対策、高齢者福祉による地域づくりをもっと詰めていく必要があると思います。もう一つは、早坂会長が前から言っています、横のつながりを持った連携です。今日の新聞に、公益文科大学が山形市を会場にしてあごだし（飛び魚のだし汁）と飛島の観光資源など酒田地域の情報をまとめて発信するという記事が載っていました。それと、都会の子供達を農村、漁村に招き入れ、農業体験をさせるような仕組みの農漁村児童体験プロジェクトも立ち上げるようです。山形市では特に進んでいて3月から運送業者と提携してトラッピングとありますが、トラックに蔵王、山寺、芋煮、さくらんぼ、花笠まつりの観光資源・名所5種類のラッピングをして都会を走らせるようです。山形市は、芸工大と提携して、産学協働でやっている例が多いのですが、去年の花笠まつりでは、「やっ初まか初とびいり入門」として、飛び入りの人がもっと気楽に踊りに参加できるようにと、芸工大の生徒が案を出して実施したところ、飛び入り参加が爆発的に増えたと聞いております。このように若い人が参加して、若い人の意見をもっと取り入れることも検討しながら、各産業を結ぶネットワークの構築を考えてもよいのではないのでしょうか。

○ **今野毅分科会長** やはり活性化というのは我々がここで考える以上に、若い人がもっといないと出来ない。その辺も含めて、いろんな産業、観光を考える必要があると思います。

○ **本間孝夫委員** いろいろなやり方、様々な運動、事業の展開は鶴岡にもたくさんありま

す。でも、鶴岡はそれをどこに向け、何のためにやっているのかという情報発信の仕方が弱い気がします。庄内浜文化伝道師、食の都庄内親善大使と、いろいろやっていますが、それをもっと横につなげながら、他に発信して、もっと人を呼ぶといった動きがもっと強まれば良いと思います。

○ **今野毅分科会長** 鶴岡には有能な人が、それぞれの才能を発揮して、様々な凄い活動をしている人がたくさんいますが、どうも鶴岡全体で盛り上がるにはインパクトがないと言いますか、そういうものが少ないような気がします。若いエネルギーを蓄え、発揮しているといえば、赤川花火大会の例がありますので、その辺の方法について教えていただきたい。

○ **佐藤正廣委員** 以前は、我々の活動は、商工会議所の青年部、農協の青年部、青年団と、横断的な組織でやっていましたが、今は少子高齢化の影響もあり、どこの組織も規模が縮小しています。鶴岡で出来ることは、我々の花火の他には、青年会議所の事業というより、関わってという意味合いの事業として、地元に着住する人を集める婚活の事業があります。もう一つは、各種青年団体が集まったの情報交換、ビジネスマッチング、それぞれの団体の中では実例としてありますが、全市的に横断的にやるということは可能かと思っています。

○ **荘司正明委員** 短期的には、高齢者の方が住みよいまちづくりというのも良いかと思いますが、長期的に見ると、鶴岡自体を何とかしていかないとと思っています。財政も厳しい中、地方分権だ、道州制だとなれば、他の市から負ける要素より、やはり勝つ要素をたくさん作っていかねばと思うのです。そのためには、商工会議所、農協、青年会議所、みんなネットワークの基盤を強固にしていかななくてはと思います。相互協力といいますか、素人考えなのですが、商工会議所の会員事業所は何件位あるのでしょうか。

○ **早坂剛会長** 会員は2600事業所あります。

○ **荘司正明委員** その会員事業所の県外の取引先というのは、何万とか何十万とかなるかと思っています。例えばその取引先に年1回請求書を送る時、資料を送る時に一緒に鶴岡の観光パンフレットを同封し一度社員旅行にどうですかというような観光とのマッチング、農協の農産物のリーフレットを送ってもらっても良いし、青年会議所のネットワークを活用するのも良い。このように、鶴岡の名前をどんどんアピールしていくというのはどうでしょうか。

○ **今野毅分科会長** 各事業所が総力戦でということですね。

○ **荘司正明委員** 中央に本社がある事業所も相当鶴岡にあると思うのですが、その本社にもかなりの社員がいると思うので、鶴岡の美味しいお米のパンフレットでも良いので、アピールといいますか、今後どんどん表に打って出て行かないと益々地盤沈下していくのではと危惧しています。

○ **今野毅分科会長** 交流人口の定着、どう活性化させるかは大きな課題であるが、そういった意味では、ひとつの手法として、総力戦というか、まさにネットワーク、横のつながり、様々の団体・業種が連携しての良いアイデアと思います。

○ **延味孝太郎委員** ただ今のご意見は大変素晴らしいと思いますので、是非進めてもらいたいと思います。観光サイドから見れば、地元には観光資源が豊富にあると思いますが、それをいかに活用していくか、難しい問題であります。他からの交流人口を増やすというのは、その地域に如何なる魅力的なものがあるか、無ければ観光客は来ません。それに対する観光資源の磨きが必要となっています。それから他への発信について、観光連盟では多くの方を観光大使に任命しています。その方々は企業を経営、あるいはいろいろな職業に就いているので、大使としての観光PRも今後実を結べば大変ありがたいと思っています。また産業との関連では、ある金融機関が同業者の出資会員4千名を本市に誘客しています。このように他の産業でも観光と企業の振興も兼ねた誘客ができるわけです。その面では、各企業が地元を愛し、宣伝し、そして誘客に努力するその気構えが必要ではないかと思うのです。横のネットワークを確立していくことが、今後の全産業の振興に繋がるのではないかと思います。

○ **佐藤正廣委員** 全産業をつなぐ横のネットワークというのは、2年前に酒田で持ち上がったことがあります。青年会議所と商工会議所青年部、商工会、農協など何とか設立総会まで行ったものの、1回で終わっています。鶴岡でやる場合も、こういった場での合意形成をしてから始めないと、せっかく団体を集めても集まらない。本来は民間活力で進めるべきことですので、せっかくこのように顔を合わせているのであれば、あとで賛同者を増やすにせよ、まずはその種を作らないと思っています。

○ **今野毅分科会長** この場をひとつの大きなきっかけにしたいと、それぞれの話を聞くとそうだと思うのですが、実際論としてどうあるべきなのでしょう。酒田の例をとれば、ただ行政の指導、誰かがこの指止まれみたいなことであつたからゆえ、大成しなかったということの反省もあるようですが、その辺を横目で睨みながらどうすればいいのか。この会が実践していくべき、そうしたいという思いは皆さん一緒のようですので、23年度の方向付けはこのようにしていきたいので、忌憚の無い意見を出し合う場としては良いと思います。五十嵐さんは、前回、山林資源に対していろいろな話をされておりましたけれども、面積的な部分だけでなく、非常に有効な資源になることですので、今日の話し合いの総括の部分も含めて、こうしたらその資源を活かせるのではといったご意見があればお願いします。

○ **五十嵐吉右衛門委員** 鶴岡市は自然豊かで非常においしい産物もあります。今後どうあるべきかについては、やはりPRが第1条件だろうと思っています。東京にある江戸屋敷は、相当な年数が経っていますが、その活動内容はどのようになっているのでしょうか。市の観光や農協の関係も産物を持ち込みながら一生懸命PRしていますが、なかなかあまりぱっとしないというか、耳に入ってこない。様々な事業あるいは交流を毎年やっているのですが、既存のものを積極的に活用するという意味でも、産物の宣伝や江戸屋敷の関係者を大い

に呼び寄せてやる方策についても、なお一層力を注ぎながら、もっと充実した内容を検討していただきたい。疎開が縁で交流が始まりましたが、何十年も経過する中で、更に一步進んだ連携、開発も重要ではないでしょうか。旧市の場合は一極集中も大事なのですが、周辺の地域性をいかに活かすべきかについても重要な課題だろうと思います。例えば山林地帯、中山間地域であれば、森林の文化的活動についても、その辺の方向性も大事だろうと思いますし、また平野にしても地域の産物をPRしながら、生産拡大あるいは加工を考えているわけです。以前、各地域の一品運動があったわけですが、援助を受け、地域の趣向を凝らしながら、例えば「白山だだちゃ豆」は地域で産物を守り、消費拡大、生産拡大につながっていきました。湯田川の場合は、当時、湯田川孟宗を起爆剤として、集落あげて観光あるいは農産物の生産高に取り組みました。このように一品運動は、地域の、市全体の活性化につながることになりますので、それぞれの地域にある産物をバックアップする協力体制として考えるべきではと思います。

○ **今野毅分科会長** 実は先日の1月25日、商工会議所とJA鶴岡とが意見交換会を開催しましたが、早坂会長がこの場でも常々お話しされているとおり、とにかく形といいますか、人と人、団体と団体、まずは交流をすべきだという話をいただきまして、非常に有意義な会でありました。とにかく何らかの行動をしなければという方向になったわけですので、何度も言うようにこの場を核としながら、調整していく必要があるのかなと思っています。それも含め、早坂会長のほうから今後の方向付けのお話しをいただきたいと思っています。

○ **早坂剛会長** 今日の前半の話を聞きまして、鶴岡の現状が良くわかりました。このままの暗い状況であってはいけない。この審議会では、鶴岡をどうやって元気にしていくかという事を我々が提言していかなくてはなりません。荘司さん、延味さんからもお話しがありました、交流人口を増やすことが1点、地域住民が住みやすいまちにするのが1点と、私はまちを活性化するにはこの2つとっております。この会は交流人口をいかに増やすかということが大テーマではないでしょうか。具体的な例として、会議所の中でも運動として取り上げておりますが、鶴岡信用金庫の加藤理事長さんが、昨年、埼玉県信用金庫さんの約3千人、この2月1日から3月半ば位までに、飯能信用金庫の約4千人が1泊2日で来鶴します。このような事例がありましたので、私は商工会議所の常任委員全員にも、観光大使だよとっております。各事業所がいろいろなところで取引があると思いますので、そういう人たちに宣伝するだけで、相当な観光客、商品の販売促進にも繋がっていくからと、会員の皆様にも積極的に声をかけております。五十嵐さんから話があった地域の一品運動がとても大事な気がします。今まで売上ということで大量に売ることが、一番のメインでしたが、そういう各地域の一品運動というものを、もう一度、鶴岡でやることで、隠れたものが表面に出て、集まってくれば相当な数になるのではとも思います。今、観光客はありきたりものには魅力を感じないので、この地域の歴史と文化と環境をいかに売っていくのか。それと食文化というのは非常に曖昧で、庄内浜の魚もおいしいと言いながら、あまり量が獲れないので大量に販売する訳にもいかない。そういう貴重品的なものを、こちらに取りに来てもらう、季節によって販売していく、そのような運動をもっともっと広めていかなければと感じています。あと、

庄内、鶴岡、酒田と言ってもわからない。ここのところで統一した名称的なもの、出羽庄内とか言うのだけれど、出来れば、庄内藩 城下町 鶴岡とか統一した名前で「庄内藩のつや姫」、「庄内藩の白山だだちゃ豆」のように、すべてにおいて庄内藩を入れた名称で売っていったらどうかと思っています。観光的なものに関しては、庄内藩という名称を使う、統一していったら、見たときに庄内藩とはどういうところなのか、おのずと見方が違ってくると思います。今は「藤沢周平」「だだちゃ豆」すべて単品で売っていて統一性、まとまりがない、広がりが出てこない、段々一つにしていく必要があるのではと思います。私、バス会社にも関わっています。先週金曜日に仙台に行きましたが、仙台駅前にバス乗り場、庄内行きの表示、宣伝が何もありません。分かる人は分かるだろうけど、仙台に新幹線で来て高速バスで乗り換えて庄内に来る人にとってはわかりにくい。今後、庄内交通の運転手達にも話をしますが、一丸となって売っていくためにも、気がついた時にそのことを市役所の観光課や会議所でもいいので、これらの情報を集めて一つずつ解決していく窓口、仕組みなど、運動的にやっていかないと元気になっていかないのではないのでしょうか。工業団地の雇用の場が海外に行かないようにどうするのか、あそこで約7千から8千人が働いており、この雇用の場が無くなったら大変なことになります。商工会議所では、雇用の安定と交流人口を増やすこと二つをテーマとしてやっています。鶴岡信用金庫の加藤理事長は、全国規模の会議には鶴岡のパンフを必ず持参し、是非来てくれと言っているようです。こういう事がきっかけで来てくれていますので、口コミというのは非常に大きい。あとは受け入れの問題です。我々は、御角櫓復元の運動をしようと思っているのですが、行政だけからお金をもらってやるのではなくて、出来れば鶴岡市民の浄財を皆さんからご協力をいただいて、これは我々が作ったという自信と誇りを持って人に薦められる整備をしていきたいのです。

○ **今野毅分科会長** とある情報誌に松本城のことが載っていたのですが、今言われるように、地元の人達が市民運動として保存・修復に動いたという記事であったと思います。今正にそのような例を目にしながらか、自分達が作ったものだというものは、やはり市民が盛り上がるし、地域の機運を高める手段の一つに御角櫓になるのかもしれないので、商工会議所を中心にしながらも、是非この会でも情報発信していきたいと思っています。

○ **早坂剛会長** コミュニティ分科会の人達にも是非協力していただきたいと思っています。

○ **今野毅分科会長** いろいろな話を積み重ねていって固まるものと常々実感しており、この会もその進むべき方向が、何か見えてきたのかと思っています。今回で意見交換の段階は終わったと思いますので、次回から実現に向けたフローを作って、どういった進め方をするのかわかるように話し合っていたらよいのかと思います。限られた時間の中ではありますが、皆様のお話を聞くのは非常に良いものと思っていますので、これからもよろしくお願ひ申し上げます。

(3) 全体会

○ 吉住光正地域活性化推進室長 それでは、全体会を再開させていただきますので、よろしくをお願いします。

○ 早坂剛会長 まとめを山田分科会長よりお願いします。

・地域コミュニティ分科会のまとめ

○ 山田登分科会長 1つは、自治振興会、町内会・自治会、自主防災会など各学区には、こうした各種団体がありますが、それぞれ一生懸命に活動はしているものの、必ずしも学区全体としてまとまりのあるものになっていないことから、組織の見直し、役割分担、連携のあり方を今後見直していかなければならないとのことで議論を進めたいと話し合われています。それから2番目として高齢者、要支援者対策について、今年は豪雪ということで、除雪対策がどのように進められているかということから議論が進み、高齢者の除雪が大変であったのではないかなど、そういったことを考えながら、高齢者の情報の共有化、協力体制の構築など支援のあり方について今後も考えていくことになっています。3番目として、地域活動を推進していくには、地域の中でリーダー、担い手を育てていかななくてはならない。この地域には公益大もあるので、大学の先生を講師にお願いするなど、人材育成のための研修を行ってはどうかというご意見も出ております。そして4番目は、地域と子どもの関わりということで、今まではどちらかという子育てという視点、子どもの体力づくりとかスポーツ活動とかという視点から子どもの関わりについて論議をしてきたわけですが、人口減少が急速に進んでいるという現状、少子化の原因等についても研究を進めて、やはり人口減少に歯止めをかける施策を考えていかななくてはならないのではないかとということが話題として挙げられております。

・産業経済分科会のまとめ

○ 今野毅分科会長 議論された内容を報告いたします。1つは、鶴岡市の人口減少、高齢化、この環境の中で高齢者福祉による地域づくりが大切であるといったことで、高齢者に対する異業種が連携した複合サービスの提供など、どのような仕組みがいいのかその検討が必要との話が出ています。2つ目に、商店街含め各種様々な経済団体等々がいろいろな形で活動、商売がされていますが、その辺を市全体として、横の連携を取りながら、活性化することを考えていきたいということが話し合われました。それから観光も含めた商店街の活性化ということですが、農林漁業の資源の活用を更に醸成していくということも含めて、まずは交流人口を確保することがこの地域においては喫緊の課題でないかという話がされました。早坂会長の方から、城下町らしさの復元ということで、御角櫓を市民運動として、やはり地域全体が一緒に取り組みながらまちづくりをするといったことをポイントにして、観光都市・鶴岡を醸成していくことも大事なのではないか、という話にもなっております。このようなことも含め、先ほどから申し上げております異業種との交流、縦割りから横の連携を更に強めていくものにして、市民運動的に産業を活性化していくといった話になりました。3番目、地場産業の振興ということでもありますけれど、農協の方でも農商官連携の協議

会を作りながらやっておりますが、農商工の中で本当の繋がりを強めていくシステムづくりが必要であるということで話がされたところです。鶴岡全体の総力戦という例として、商工会議所会員2600事業所の全国の取引先が数万社に及ぶのではないかとということで、皆がセールスマン、地元を売り込む、その一翼を担うというスタンスで、鶴岡の交流人口を増やす運動していく必要があるのではないかとということでまとまっています。今後につきましては、これらをいかに具現化するかということについて、次回からフローをつくりながらやって行きたいと思っております。

・その他

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 今の両分科会長のお話をお聞きしましても、回を重ねるごとに相当ポイントが絞れた議論がされてきたのかと感じております。ただし、皆様に申し訳ないのは時間配分が半日という中でこなせてないとも感じておりますので、来年度はその点も引き続き注意しながら進めて参りたいと思います。来年度の地域審議会ですが、皆様には引き続き委員もお願いしておりますので、来年度も今年度と同じようペースで進めながら、今の分科会の2つのテーマで、更にポイントを詰めながら議論していただきたいと思っております。そして、来年度の予算化前までに、議論の内容を一つの具体的な提言としてまとめながら、市長に報告という形で進めてまいりたいと思います。来年度も今年度と同様に総合計画とか学区再編とか行政課題として非常に重要なテーマについても、地域審議会の皆様からもご意見を伺いたいと思っておりますので、そういうテーマが出てきた折に、それぞれご意見をお聞きするという事も引き続き行ってまいりますので、その点もよろしくご承知おき願いたいと思います。

○ **早坂剛会長** 今、お話しがありましたように、来年4月以降の4～5回の開催予定になるようです。この1年間、皆様とお話ししてまいりまして、今日かなりの方向性が出たのではと思います。私のちょっと個人的なことなのですが、地域住民の如何に住みやすいまちにするかという問題、このまちをいかに元気にするかという問題、この2つが大きな課題だったのであると思っております。このことをテーマにしながらもっと掘り下げた形で、来年度はもっていきたいと思っておりますので、皆様、来年度もよろしくお願ひします。

4 その他 なし

5 閉会 (午前11時45分) (吉住地域活性化推進室長)